

すべての人に最高の余暇を



Contents

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 01 会長メッセージ | 15 コーポレートデータ |
| 03 トップインタビュー | 16 株式情報 |
| 09 TOPICS 新たな成長分野の強化 | 17 IRコミュニティ |
| 10 企業の社会的責任 (CSR) への取り組み | 18 第三者によるフィールズの分析レポート |
| 11 連結財務諸表 (要約) | |



このたびの東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い心身とものご回復と地域のご復興をお祈り申し上げます。

当社グループとしては、復興支援に最大限協力すべく思慮を重ねてまいりましたが、とりわけ新しい未来を切り開く子供たちへの支援活動を永続的に展開していくことがきわめて重要と考え、グループ全体が一丸となって「ウルトラマン基金」に思いを託し、被災者の方々の傷つかれた精神をケアすることを含めた物心両面からのご支援を粘り強く継続的に実施していくことをお約束いたします。

代表取締役会長 (CEO)

山本 英俊

山本 英俊

21世紀の成熟化する社会は、医療やテクノロジーの進化が長寿命社会をもたらし、人々は増加をたどる余暇時間に多様な時間消費のニーズを生み出しています。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社は、この増加する余暇時間にエンタテインメント性の高い商品やサービスを提供するとともに、未来の人々の心を豊かにする余暇のあり方の調査・研究を重ねてきました。そして、2003年の株式上場時には、将来的な成長を牽引する一つの戦略としてコンテンツを中核としたビジネススキームを掲げました。そこから優良IP（知的財産）と最先端のクリエイティブ&テクノロジーを結集・融合し、複合化を推進し続けることで、このコアモデルは進化を遂げながら力強く生き続けています。

2011年3月期は、このスキームを深化・確立させるため、(株)円谷プロダクションなどの専門分野に秀でた企業を新たに当社グループに迎え入れるとともに、パートナー企業との連携もより一層強化しました。さらに、コンテンツの多元展開先として、事業の中核であるパチンコ・パチスロ分野はもとより、オンラインサービス分野の強化・拡充に努めるなど、将来の来るべき飛躍に向けた諸施策を推進し、着実な成果も出しつつあります。このような未来への布石の一つひとつが長期的ビジョンの実現につながり、当社グループの収益機会の創出及び企業価値の向上に結び付くものと確信しています。

私たちフィールズグループは、今後も多様な価値観を有する多くの人々に新鮮な感動や驚きを体験できるエンタテインメントを創造していきます。同時に、事業そのものが社会全体の幸せに寄与し、皆様からの信頼に応えられるように全社一丸となってまい進していきます。これまでも当社の企業理念にご賛同賜り、お力添え頂きました株主の皆様には深謝いたしますとともに、当社グループが切り開く未来にご期待頂き、引き続きのご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

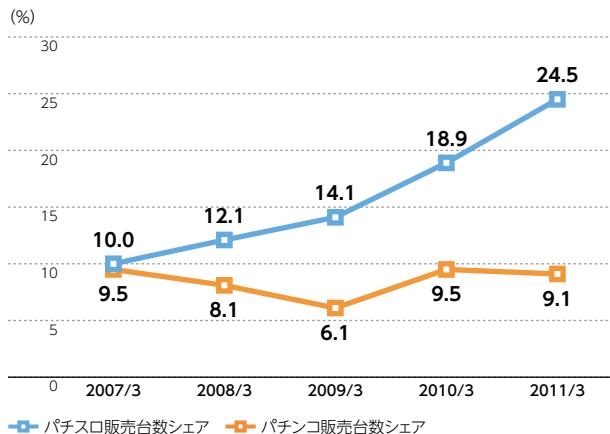
2011年6月



代表取締役社長 (COO)
大屋 高志

大屋 高志

■ 当社販売台数シェア推移 (当社調べ)



■ 2011年3月期の総括

本株主通信をお届けするにあたり、平素のご支援とご愛顧に深く感謝申し上げます。

2011年3月期の連結業績は、売上高103,593百万円(前年同期比56.2%増)、営業利益13,136百万円(同61.7%増)、経常利益13,684百万円(同76.3%増)、当期純利益7,520百万円(同128.6%増)となりました。

売上高、経常利益、当期純利益は過去最高を達成しましたが、業績伸長の主因として大きく2点が挙げられます。

1点目は、回復基調にあるパチスロ市場に対して、数年前から準備を重ねてきた大型タイトルを順次投入してきたことによるものです。「新鬼武者」などの当期継続販売機種をはじめ、「俺の空～蒼き正義魂～」[モバスロ エヴァンゲリオン～真実の翼～]などの新機種販売も好調に推移し、「エヴァンゲリオン」シリーズへの依存という当社の経営課題にも対処できたと考えています。

2点目は、グループ各社の収益が回復に転じ、グループ事業が全体で黒字化したことです。とくに、2010年4月に(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティアを連結子会社としたことでグループ事業関連の収益改善が進んでおり、今後は事業展開においても大きな相乗効果を発揮すると考えています。

■ パチンコ・パチスロ事業の総括

パチンコ・パチスロ市場は、総設置台数が4年ぶりに増加に転じるなど、市場全体が明るさを取り戻しつつあります。

とくに、パチスロ市場は設置台数の減少が底を打ち回復に転じました。各社ともファンのニーズに対応した商品を投入することで市場全体が活性化に向かっており、この好循環が回復基調をさらに後押しすると見えています。

一方、パチンコ市場は射幸性の高いMAXタイプの自主規制が相次ぐなか、パチンコホールは収益構造の見直しを迫られ、販売台数は一時的ながら低調に推移しました。しかし、ここにきて射幸性を和らげたミドルタイプがファンから高い評価を得たことで、健全化を伴いながら回復に向けて動いています。

このような環境下、パチスロ遊技機販売では6機種を発売し、総販売台数は217,659台(前年同期比82.7%増)となりました。これにより、販売台数シェアは24.5%となり、2年連続の業界トップシェアも達成しました。(当社調べ)

パチンコ遊技機販売では「CRエヴァンゲリオン～始まりの福音～」など4機種を発売しましたが、市場の冷え込みにより総販売台数は262,614台(同20.6%減)にとどまりました。なお、販売台数シェアは9.1%と前期並みの水準を維持しています。(当社調べ)

■ 今後の成長に向けて

パチンコ・パチスロ分野は、今後の成長に向けて流通・企画・開発の3つの領域で戦略的施策を推進しています。

流通領域は、当社の最大の強みであり、市場データの定性・定量分析に基づく当社独自のPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを実行しています。2011年3月期に投入した商品が高い評価を頂いたのも、まさにこの機能の表れと見えています。

企画領域は、知的財産(IP)の価値を最大限に活かしたパチンコ・パチスロ向けコンテンツの企画・開発を推進し、非常に高いレベルの商品化を実現しています。なかでも、遊技機との親和性が高い“ヒーローもの”研究に注力するとともに、新たな付加価値をもたらすIPを取得、保有、創造し、これらコンテンツをグループ各社と連携して成功に導いていきたいと考えています。

開発領域は、パチンコ・パチスロ向けに最適化したコンテンツを実際のプラットフォームに実現させる必要不可欠なフェーズです。2010年4月には国内トップクラスのCG(コンピュータ・グラフィックス)制作会社(株)デジタル・フロンティア、2011年1月には遊技機液晶表示用の映像ソフトウェア開発を主力事業とする(株)マイクロキャビンを連結子会社化しており、今後も企画に強い開発ラインの強化に努めていきます。なお、これら3領域での施策の推進は、(株)SANKYO、サミー(株)、京楽産業.(株)などの提携各社との関係強化にも資するもので、業界全体の成長にも貢献できると考えています。



専務取締役
(グループ事業管掌 兼 事業本部長)
繁松 徹也

敏 松 徹 也

■ グループ事業の総括

グループ事業では、「挑戦が、未来を創る」というスローガンのもと、数年前から様々な挑戦を行ってまいりましたが、新しいビジネスの息吹が感じられるようになってまいりました。

コンテンツのマルチユースに関する取り組みでは、その基盤構築を着実に進めています。コンテンツを収益化するメディア戦略におきましては、パチンコ・パチスロ分野の比重過多の状況が続いていましたが、近年はモバイル、オンラインサービス、ゲーム、映画、出版などの幅広いメディアにも、多くの有力企業やクリエイターとも協力しながら展開できる体制が整いつつあります。例えば、モバイル、オンラインサービス分野では、パチンコ・パチスロ分野の二次展開ビジネス拡大に向けて、パチンコとモバイルを融合させた「モバスロ」などの新サービスを開始しました。一方で、パチンコ・パチスロ以外のコンテンツを活用した新サービスの開発投資も積極的に実施しており、複数のサービスインによって新規会員の獲得も順調に推移しています。

また、コンテンツを保有・創出することから発生する収益化への取り組みは、様々な形での仕組みづくりが進んでいます。この取り組みでは、外部のコンテンツホルダーやコンテンツプロバイダーとの協力体制構築が重要な要素となっています。その実践として、2011年3月期には「ウルトラマン」シリーズなどの優良IPを保有する(株)円谷プロダクションや、(株)デジタル・フロンティアなどの有力企業をグループに迎え入れ、オンラインサービス分野では「ハンゲーム」を運営するNHN Japan(株)との共同出資でアイピー・ブロス(株)を設立しました。また、コンテンツの創出に向けては、(株)小学館クリエイティブとの共同出資で出版会社(株)ヒーローズを設立しました。

■ 今後の成長に向けて

中長期的に見ると、国内のエンタテインメント市場の飛躍的な発展は厳しく、企業として持続的な成長を目指すにはアジア・北米などを含めたグローバル市場を視野に入れることが必要だと考えています。海外市場におきましては、エンタテインメント分野のグローバル化が進んでおり、そう遠くない未来に国内でも総合エンタテインメント連合が形成される可能性があると考えています。こうした時代の潮流を先読みし、当社グループが未来の日本型総合エンタテインメント連合の中心的存在になるために、スピード感を持って様々な施策を推進していきます。

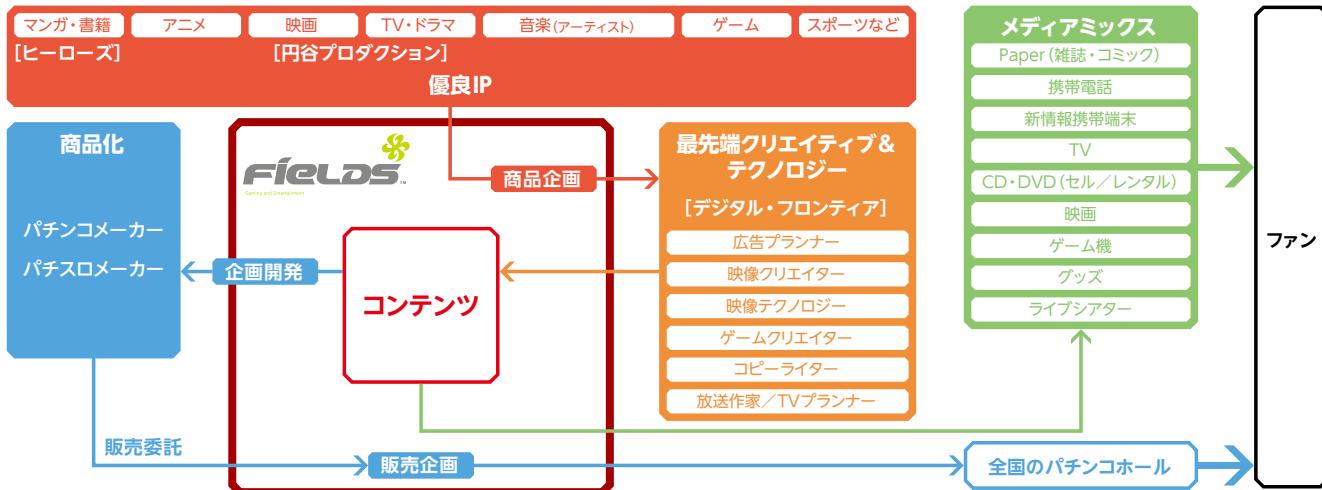
中核的な事業の一つであるコンテンツのマルチユース展開については、様々なメディアに適したコンテンツの保有・創出を図り収益化を目指していきます。また、各メディアでは、パチンコ・パチスロ分野での強みを活かしつつ、幅広い

コンテンツホルダーやコンテンツプロバイダーとコラボレーションを実現し、収益力の向上に努めていきます。

さらに、基盤的な取り組みとして、未来の世の中の人々が求める余暇についても引き続き調査・研究を重ね、将来のコンテンツやメディアの方向性を加味した「感動」と「興奮」を提供する商品やサービスを創造していきます。こうした未来への挑戦には、有力企業との協業やM&Aなどに付随する新たな投資も必要となってきますが、常に投資効果の最大化を図り、その利益を株主の皆様へ還元できるようにまい進していきたいと考えています。

株主の皆様には、当社グループのさらなる成長にご期待頂き、長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

■ ビジネススキーム



■ 2012年3月期の見通し

2012年3月期の連結業績の見通しは、売上高100,000百万円(前年同期比3.5%減)、営業利益14,000百万円(同6.6%増)、経常利益14,000百万円(同2.3%増)、当期純利益8,000百万円(同6.4%増)を見込んでいます。

2011年3月期は過去最高収益を達成しましたが、2012年3月期も、厳しい経営環境を超えて引き続き過去最高収益を更新していきたいと考えています。

当社のパチンコ・パチスロ事業は、これまで以上に商品力を増した強力なラインナップが充実しています。2012年3月期上半期は、パチンコ機として「CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-」に加え、京楽産業.(株)との提携商品第1弾の販売を予定しています。両機種とも高いゲーム性・エンタテインメント性を結集しており、ファンから高い評価を頂けると確信しています。

一方、グループ事業は、事業再編が一応の目処がついたことに加え、本年4月には中長期的な成長を支えるIP戦略の強化に向けて「コンテンツ本部」を新設するなど、コンテンツビジネスを核とした新たな成長への施策が着実に進んでいます。これによるグループ各社の収益性向上が当社グループ

全体の利益を底上げすると考えています。

なお、2012年3月期の当社を取り巻く環境は、東日本大震災がおよぼすパチンコホールへの影響が懸念され、一部の遊技機メーカーでは部材不足による生産・出荷時期のずれなども予想されます。

このため、当社商品の投入時期は慎重に検討する必要がありますが、遊技機の商品ラインナップ自体は整っており、グループ事業の業績寄与も期待できる状況です。当社グループとしては、連結営業利益14,000百万円の見通しを達成すべく一層努力するとともに、中期経営計画で発表した営業利益目標17,000百万円を目指していく所存です。

中期経営計画(5年)については、2012年3月期で3年目を迎え、当初の前提であった市場環境や経営環境が大きく変化するなか、4年目、5年目の計画については改めて精査を行ったうえで発表させて頂きたいと考えています。

■ 連結業績の見通し

(単位: 百万円)

	2011年3月期 (実績)	2012年3月期 (計画)	前年同期比 (%)
売上高	103,593	100,000	△3.5
営業利益	13,136	14,000	+6.6
経常利益	13,684	14,000	+2.3
当期純利益	7,520	8,000	+6.4



◀ CR ayumi hamasaki
浜崎あゆみ物語 -序章-

©avex management inc.
©avex entertainment inc.
©Bisty

■ 最後に

当社グループは、短期的な視点にこだわりすぎて成長機会を逸することがないように、常に中長期的な仮説をもって成長戦略を展開しています。この執行にあたっては、パートナー企業との取り組みや研究開発に係る投資が必要不可欠と考えていますが、当然ながら財務戦略との二軸で推進しています。

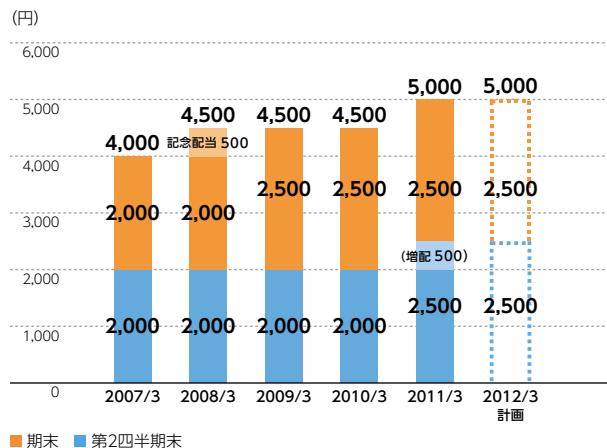
配当政策は、安定かつ利益に応じた配当の実施を基本方針としており、企業の成長とともに長期的な増配を続けていきたいと考えています。配当金については、2011年3月期の1株当たり年間配当金を5,000円(前年同期500円増)とさせて頂きました。また、2012年3月期の1株当たり年間配当金についても5,000円(連結配当性向20.8%)を計画しています。これをもって十分とするのではなく、前述の様々な施策を果敢に実施することで連結業績見通しをさらに上回り、その成果をもって株主の皆様により多くの利益還元を行うことを大きな目標としていきます。

私たちフィールズは「すべての人に最高の余暇を」という企業理念に想いを寄せる集団です。世の中の人々が望むエンタテインメントがすでに失われたものであれば再生し、今存在しないものであれば自ら創出することで、より多くの人々に感動と興奮を提供していきます。

株主の皆様におかれましては、当社グループが創り出すエンタテインメントにご期待頂き、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



■ 1株当たり配当金



TOPICS 新たな成長分野の強化 ～オンラインサービスの拡充に向けて～

フィールズグループは、知的財産 (IP) と、その付加価値を高める人材と技術 (クリエイティブ&テクノロジー) を融合したハイブリッドコンテンツを幅広いエンタテインメント領域に展開しています。

2011年3月期は、グループ各社との連携を深め、新たな成長分野と位置付けるオンラインサービス領域に対して、優良なパチンコ・パチスロコンテンツのクロスメディア展開を仕掛けるとともに、エンタテインメント性の高い新たなコンテンツサービスを開始させるなど、オンラインサービスの拡充に向けた諸施策を推進しました。

IPBros.inc.
(出資比率: フィールズ(株) 85.0%)



FIELDS™
Gaming and Entertainment
コンテンツの商品企画



FutureScope
(出資比率: フィールズ(株) 83.3%)

オンラインサービスの拡充に向けて

パチンコ・パチスロ市場活性化に向けたコンテンツ

モバイル

フィールズモバイル

手軽に遊べるシミュレータアプリや「待受画像」「着うた®」などの豊富なデジタルコンテンツを充実させ、パチンコ・パチスロファンの拡大に努めています。



©カラー ©Bisty

モバスロ

NEW▶

モバイルサイトと連動して実機の表現力を向上させた新たなサービスで、パチスロに高い付加価値を提供していきます。



©カラー ©Bisty

PC

ななばち

NEW▶

国内最大級のゲームポータルサイト「ハンゲーム」で展開するオンラインパチンコホールで、新たなパチンコ・パチスロファン創出を目指していきます。



©GAINAX・カラー/Project Eva. ©Bisty

Pスペース

NEW▶

高性能シミュレータアプリなどのデジタルコンテンツを多数提供し、パチンコ・パチスロファンの拡大に努めています。



©カラー ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©Bisty

新情報携帯端末 (スマートフォンなど)

新世紀エヴァンゲリオン ～魂の軌跡～

NEW▶

「新世紀エヴァンゲリオン～魂の軌跡～」のシミュレータアプリをスマートフォン市場に投入し、「エヴァンゲリオン」ファンの拡大を目指していきます。



©カラー ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©Bisty

新たなエンタテインメントコンテンツ

モバイル

写メ字

NEW▶

ユーザーの高いニーズに応えた実写デコメを作成するサービスで、顔認識技術や物体認識技術などの最先端の技術を活用しています。



モバイル×PC

ニコクーポン

NEW▶

エンタテインメントで店舗とユーザーをつなぐクーポン・エンタテインメントサービスで、新たなクーポン市場の創出を目指していきます。



新情報携帯端末 (スマートフォンなど)

DECOCUTE、SAKELOVE、他

NEW▶

急速に拡大するスマートフォン市場にも、エンタテインメント性の高いアプリを随時投入していきます。



(注) 着うた®は、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

NEW▶ は2011年3月期に開始したサービスです。

企業の社会的責任(CSR)への取り組み

CSRに対する基本的な考え方

当社は、増加をたどる余暇時間を充実させるエンタテインメント性溢れる商品やサービスを通じて「すべての人に最高の余暇を」提供することを使命としています。そして、そのための取り組みを持続的に行うことが、皆様一人ひとりの豊かさのみならず社会全体の豊かさの創造に寄与するものと確信し、事業活動を行ってまいります。これが、当社における企業の社会的責任(CSR)に対する基本的な考えです。

当社は、この基本的な考えに基づく事業活動の浸透と、企業の社会的責任を果たすことを目的として、2008年5月に全社横断的な組織であるCSR委員会を設置しました。

今後も社会的責任を重んじたCSR活動を推進することで、様々なステークホルダーの皆様、社会の皆様に貢献できるよう努めていきます。

2010年4月から2011年5月までの主な取り組み

チャリティゴルフトーナメントに協賛

渋谷区一斉清掃活動
(4月28日「しぶやの日」)に参加

渋谷区定例清掃活動
(渋谷駅前統一美化デー)に参加

AED(自動体外式除細動器)の導入を推進

ウォームビズを推進

東京都渋谷区主催「きれいなまち渋谷を
みんなで作る条例」啓発キャンペーンへ参加

一般社団法人JEAN主催
「鶴沼海岸クリーンアップキャンペーン」に参加

情報セキュリティマネジメントシステム
「ISO27001:2005」の認証を更新

品質マネジメントシステムの最新規格
「ISO9001:2008」へ移行

クールビズ(軽装)を推進

障がい者雇用促進のための
“沖縄事務センター”を開設

グループCSR 被災地の子供たちの、今と未来を支援する基金「ウルトラマン基金」を設立

(株)円谷プロダクション並びにグループ内の賛同企業各社では、東日本大震災において被災された皆様、とりわけ未来への希望の光である子供たちに心からのエールと物資を贈り、そして子供たちの未来のために永続的に支援活動を展開する、「ウルトラマン基金」を設立しました。

2011年4月10日には、宮城県石巻市、南三陸町、気仙沼市の3か所の被災地を訪れ、炊き出しや支援物資の提供を行うとともに、子供たちに笑顔を取り戻してもらうため、ウルトラマン、ウルトラセブン、ウルトラマンゼロなどによるウルトラヒーローショーを開催しました。

今後も基金の寄付のみならず、被災者の皆様へ物心両面からの支援を継続的に実施していきます。

ウルトラマン基金

設立

2011年3月

運営事務局

(株)円谷プロダクション

URL

<http://www.ultraman-kikin.jp>



ウルトラマンショーの風景(宮城県石巻市)

連結財務諸表(要約)

(主な差異要因)

受取手形及び売掛金

「受取手形及び売掛金」は、パチスロ遊技機販売に係る売上債権の減少により前期末から5,140百万円減少して27,948百万円となりました。
 なお、「流動資産」は前期末から5,643百万円減少して51,051百万円となりました。

のれん

「のれん」は、(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティア、(株)マイクロキャビンの新規連結子会社化により前期末から2,562百万円増加して2,801百万円となりました。
 なお、「無形固定資産」は前期末から2,737百万円増加して5,070百万円となりました。

投資有価証券

「投資有価証券」は、投資有価証券の取得及び持分法の投資利益により前期末から601百万円増加して8,466百万円となりました。
 なお、「投資その他の資産」は前期末から182百万円増加して12,760百万円となり、「固定資産」は前期末から3,286百万円増加して27,920百万円となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度末 2010年3月31日現在	当連結会計年度末 2011年3月31日現在	増減額
資産の部			
流動資産	56,694	51,051	△5,643
現金及び預金	15,916	15,873	△43
受取手形及び売掛金	33,088	27,948	△5,140
有価証券	48	—	△48
商品及び製品	107	300	+193
仕掛品	1,027	826	△201
原材料及び貯蔵品	385	231	△154
繰延税金資産	807	1,249	+442
商品化権前渡金	2,838	2,067	△771
その他	2,829	2,755	△74
貸倒引当金	△355	△200	+155
固定資産	24,634	27,920	+3,286
有形固定資産	9,721	10,089	+368
建物及び構築物	2,976	3,048	+72
機械装置及び運搬具	26	27	+1
工具、器具及び備品	529	654	+125
土地	6,170	6,324	+154
建設仮勘定	18	34	+16
無形固定資産	2,333	5,070	+2,737
のれん	239	2,801	+2,562
その他	2,094	2,268	+174
投資その他の資産	12,578	12,760	+182
投資有価証券	7,865	8,466	+601
長期貸付金	345	417	+72
繰延税金資産	1,124	942	△182
その他	3,357	3,409	+52
貸倒引当金	△114	△475	△361
資産合計	81,329	78,971	△2,358

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度末 2010年3月31日現在	当連結会計年度末 2011年3月31日現在	増減額
負債の部			
流動負債	35,845	27,587	△8,258
支払手形及び買掛金	26,610	17,939	△8,671
1年内償還予定の社債	720	740	+20
短期借入金	—	85	+85
1年内返済予定の長期借入金	—	44	+44
未払法人税等	3,562	4,217	+655
賞与引当金	273	312	+39
役員賞与引当金	135	220	+85
受注損失引当金	11	—	△11
事務所移転損失引当金	14	—	△14
その他	4,517	4,028	△489
固定負債	4,295	4,362	+67
社債	1,510	900	△610
長期借入金	—	65	+65
退職給付引当金	274	339	+65
その他	2,511	3,058	+547
負債合計	40,141	31,949	△8,192
純資産の部			
株主資本	41,741	47,601	+5,860
資本金	7,948	7,948	—
資本剰余金	7,994	7,994	—
利益剰余金	27,583	33,443	+5,860
自己株式	△1,785	△1,785	—
その他の包括利益累計額	△676	△821	△145
その他有価証券評価差額金	△676	△822	△146
為替換算調整勘定	0	0	—
少数株主持分	122	242	+120
純資産合計	41,187	47,021	+5,834
負債純資産合計	81,329	78,971	△2,358

(主な差異要因)**支払手形及び買掛金**

「支払手形及び買掛金」は、パチスロ遊技機販売に係る仕入債務の減少により前期末から8,671百万円減少して17,939百万円となりました。

なお、「流動負債」は前期末から8,258百万円減少して27,587百万円となり、「負債合計」は前期末から8,192百万円減少して31,949百万円となりました。

有利子負債

「有利子負債」は、新規連結子会社化により一部借入金や社債を継承していますが、社債の償還などにより前期末から396百万円減少して1,834百万円となりました。

利益剰余金

「利益剰余金」は、利益面が大きく伸長したことにより前期末から5,860百万円増加して33,443百万円となりました。

なお、「株主資本」は前期末から5,860百万円増加して47,601百万円となり、「純資産合計」は前期末から5,834百万円増加して47,021百万円となりました。

(注)増減額については、表上計算しています。

(主な差異要因)

売上高

「売上高」は、前期と比較して56.2%増の103,593百万円となりました。

これは、前期発売のパチスロ遊技機の追加受注が好調であったことに加え、新機種販売も堅調に推移したことによるものです。また、グループ事業関連は収益改善が進み、業績向上に寄与しています。

営業利益

「営業利益」は、売上高同様の理由により前期と比較して61.7%増の13,136百万円となりました。

また、「その他・フィールド」の営業利益は、(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティアの株式取得に伴うのれん償却費270百万円を含んでいますが、前期70百万円の営業損失に対して当期は315百万円の営業利益となりました。

当期純利益

「当期純利益」は、売上高同様の理由により前期と比較して128.6%増の7,520百万円となり、「1株当たり当期純利益」は22,643円となりました。

*包括利益

当連結会計年度より「包括利益の表示に関する会計基準」を適用しています。なお、「包括利益」は7,382百万円となり、その内訳としては、「親会社株主に係る包括利益」が7,375百万円、「少数株主に係る包括利益」が6百万円となっています。

連結損益計算書(セグメント情報含む)

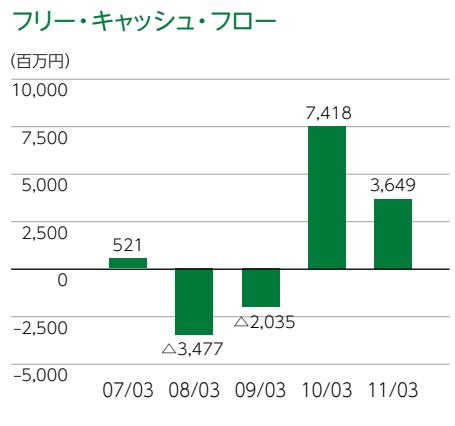
(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率(%)
	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	
売上高	66,342	103,593	+56.2
PS・フィールド	62,379	94,115	+50.9
モバイル・フィールド	1,821	2,032	+11.6
スポーツエンタテインメント・フィールド	2,416	2,171	△10.1
その他・フィールド	619	5,881	+849.7
調整額	△895	△606	—
売上原価	39,452	68,464	+73.5
売上総利益	26,889	35,129	+30.6
販売費及び一般管理費	18,764	21,993	+17.2
営業利益	8,124	13,136	+61.7
PS・フィールド	8,133	12,866	+58.2
モバイル・フィールド	393	236	△39.9
スポーツエンタテインメント・フィールド	△324	△290	—
その他・フィールド	△70	315	—
調整額	△7	8	—
営業外収益	484	1,136	+134.7
営業外費用	846	588	△30.5
経常利益	7,761	13,684	+76.3
特別利益	53	215	+305.7
特別損失	597	488	△18.3
税金等調整前当期純利益	7,218	13,410	+85.8
法人税等	3,900	5,833	+49.6
少数株主損益調整前当期純利益	—	7,527	—
少数株主利益	29	6	△79.3
当期純利益	3,289	7,520	+128.6

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額
	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,429	8,005	△424
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,011	△4,356	△3,345
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,687	△3,915	△1,228
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△7	△3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,725	△274	△4,999
現金及び現金同等物の期首残高	11,181	15,906	+4,725
現金及び現金同等物の期末残高	15,906	15,632	△274



連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位:百万円)

科目	株主資本				株主資本 合計	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
2010年3月31日残高	7,948	7,994	27,583	△1,785	41,741	△676	0	△676	122	41,187
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△1,660	—	△1,660	—	—	—	—	△1,660
当期純利益	—	—	7,520	—	7,520	—	—	—	—	7,520
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	△145	0	△145	119	△25
当期変動額合計	—	—	5,859	—	5,859	△145	0	△145	119	5,834
2011年3月31日残高	7,948	7,994	33,443	△1,785	47,601	△822	0	△821	242	47,021

(注)増減額及び増減率については、表上計算しています。

コーポレートデータ

会社概要

(2011年3月31日現在)

商号	フィールズ株式会社 (英文社名: FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー
事業内容	1. 遊技機の企画開発 2. 遊技機の仕入、販売 3. キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4. 映像ソフトの企画開発、販売
資本金	7,948百万円
従業員数	1,149名(連結)
連結対象会社	フィールズジュニア(株) (株)フューチャースコープ ジャパン・スポーツ・マーケティング(株) ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) (株)円谷プロダクション (株)デジタル・フロンティア 他 8社

役員

(2011年6月1日現在)

代表取締役会長	山本 英俊
代表取締役社長	大屋 高志
専務取締役(グループ事業管掌 兼 事業本部長)	繁松 徹也
専務取締役(PS事業管掌)	秋山 清晴
常務取締役(コンテンツ本部長)	栗原 正和
社外取締役	糸井 重里
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(営業本部長)	藤井 晶
取締役(会長室長)	末永 徹
社外監査役 常勤	松下 滋
社外監査役	小池 敕夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎
執行役員(計画管理本部副本部長)	小澤 謙一
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(開発本部長)	藤島 輝男
執行役員(営業本部 兼 同本部販売戦略部長 兼 同本部北海道・東北支社長)	若園 秀夫
執行役員(グループ事業開発部長 兼 エグゼクティブプロデューサ)	小澤 洋介
執行役員(計画管理本部財務・予算部担当部長)	糟谷 総一
執行役員(コンテンツ本部副本部長)	黒川 裕介
執行役員(コンテンツ本部副本部長)	大塩 忠正
執行役員 事業本部付 エグゼクティブプロデューサ (株)デジタル・フロンティア 代表取締役社長)	植木 英則
執行役員 事業本部付 エグゼクティブプロデューサ (ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)代表取締役社長)	鎌形 英一
執行役員 事業本部付 エグゼクティブプロデューサ (ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)代表取締役社長)	菊池 伸之

(注) ()内は主たる役職となっています。

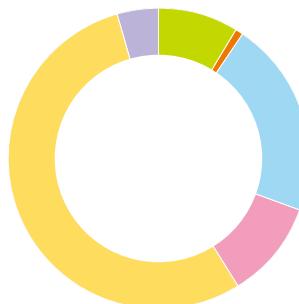
株式情報

(2011年3月31日現在)

株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
自己名義株式	14,885株
株主数	9,642名

所有者別株式分布状況



● 金融機関	8.82%
● 金融商品取引業者	0.88%
● その他国内法人	20.96%
● 外国法人等	10.63%
● 個人・その他	54.42%
● 自己名義株式	4.29%

大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	86,750	25.00
(株)SANKYO	52,050	15.00
山本 剛史	36,128	10.41
(有)ミント	16,000	4.61
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	9,609	2.77
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	7,964	2.30
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	7,680	2.21
大屋 高志	4,500	1.30
ビービーエイチルクス フィデリティ ファンズ ジャパン アドバンテージ	3,880	1.12
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	3,622	1.04

*当社所有の自己名義株式は除いています。

積極的なIR活動を推進していきます

当社は、株主及び個人投資家の皆様との信頼関係構築を第一義に積極的なIR活動を推進していますが、より有意義な情報提供に向けては、多くの改善施策を進めていきたいと考えています。

諸施策の一例としては、IRサイトでは、タイムリーかつお役に立つ情報発信に向けて、各種頂戴しましたご意見も踏まえながら改善に努めるとともに、アンニュアルレポートなどのIRツールでは、皆様により分かりやすい情報提供を心掛け、

有識者からの評価も踏まえた制作に努めています。

今般、IRサイトでは、日興アイ・アール(株)発表の「2010年度最優秀サイト」に選定されるとともに、アンニュアルレポートでは、(株)日本経済新聞社が実施する「第13回日経アンニュアルレポートアワード2010」で佳作を受賞しましたが、今後もより多くの皆様にご理解頂けるよう努めてまいりますので、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



IRサイト <http://www.fields.biz/ir/j/>



アンニュアルレポート2010 「第13回日経アンニュアルレポートアワード2010」表彰盾



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行(株)
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行(株)の全国各支店並びに日本証券代行(株)の本店及び全国各支店で行っております。
上場証券取引所	大阪証券取引所(JASDAQ) 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL http://www.fields.biz (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

●住所変更のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用頂くことができます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

大和証券キャピタル・マーケット(株)

金融証券研究所 企業調査第二部

課長代理/アナリスト 白石 幸毅

フィールズは、遊技機(パチンコ、パチスロ機)の販売商社に端を発し、創業来、遊技機業界はもちろん、各コンテンツホルダー(著作権等保有者)との接点を多く築き上げてきた。そして、その接点を生かして獲得したコンテンツの使用権や、そのコンテンツの活用、企画力、そしてメーカーと共同で開発した機種を市場全体に広める販売力が同社の強みとなってきた。

同社は、創業からまだ歴が浅い方に属する企業かもしれないが、提携や買収を通じて、その時代情勢の変化に応じた企業形態の変化を柔軟に行っていることも、これもまた同社の強みであろう。過去数年においても、権利獲得を目指した(株)円谷プロダクションの取得、企画だけでなく開発力の強化を目指すための(株)マイクロキャビン、(株)デジタル・フロンティアの取得、モバイルコンテンツ展開を強化するためのNHN Japan(株)(韓国大手インターネットサービス事業者の日本法人)との提携など、数多くの事例を残している。

このような柔軟な変化の姿勢によって生み出される強みは、一朝一夕に覆されるものではなく、自前に企画・開発部門を持つ有力遊技機メーカーが同社と提携関係を結んでいることがその何よりの証左であろう。2011年3月期~2012年3月期においても、これまで関係の近かったメーカー((株)SANKYO、セガサミーホールディングス(株))に、(株)エンターライズ((株)カプコンの連結子会社)、京楽産業.(株)との新たな提携効果が加わる形で顕在化していく見通しである。

一方、業績だけを見れば、主力の遊技機関連事業(PS事業)は、ヒット機種の有無によって業績が大きく変動する特徴を有することもまた事実である。実際、2011年3月期の過去最高益業績も、同社看板タイトルと言うべき「エヴァンゲリオン」シリーズの遊技機の寄与が大きい。しかし、既述したコンテンツホルダーの取得、提携や、開発部門強化の動きは、この「エヴァンゲリオン」依存度の高い状態からの脱却を狙うものであり、事業リスクの分散化、安定性の向上につながるものと理解している。買収や提携を行った案件は、その規模がそれほど大きくないものも含まれることや、モバイル分野の強化のようにやや時間を要するものも含まれる。つまり、連結業績はまだしばらくは、主力のPS事業が左右する状態が続くことが想定される。

しかし、このことを決してマイナスに捉える必要はないだろう。同社は過去に、遊技機関連以外の事業において、多角化を急ぎすぎたあまり、家庭用ゲーム事業((株)D3パブリッシャー)のように、事業管理面での失敗などを経験したことがある。直近で行われている買収・提携の実行スピードや規模感においては、このような過去の反省が十分に考慮されている印象が強い。

遊技機業界を取り巻く環境は、決してフォローアップではないが、同社業績は、当面は新たな遊技機メーカーとの提携効果によって拡大成長が見込める状況である。つまり、次の成長のシーズを育む時間は十分あると言える。安定成長軌道にあるという点で同社は魅力的だが、次なるシーズの芽生えによって、さらにどのように発展するのか、このわくわく感を感じさせてくれる点が、それ以上に同社の魅力ではないだろうか。

会社概要

当社は、(株)大和証券グループ本社傘下のホールセール専門証券会社である。国内外の機関投資家に対し、コンサルティング業務、投資銀行業務、経済・企業などのリサーチ業務、ベンチャーキャピタル業務など、広範囲の金融ビジネスサービスを提供している。



白石 幸毅(しらいし・こうき)

2002年の入社来、一貫して企業調査部に在籍し、上場企業を主な対象とした証券アナリスト業務に携わる。通信、機械、米国企業などのセクター担当を経て、2011年1月より、民生エレクトロニクス、ゲーム・アミューズメントセクター担当アナリストを務める。



www.fields.biz

すべての人に最高の余暇を

／ 企業理念への想い

VOICE

われわれ経営陣は、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念の下に集まりました。この、途方もなく高いゴールに向かってわれわれは挑戦を続けています。

この挑戦のベースになるものが、IP (知的財産) です。版元様からIPをお借りして映像化・商品化したり、(株)円谷プロダクションのように資本提携したパートナー企業とともに既存IPを育成したり、クリエイターやパートナー企業の皆様とともに一から創造したり。これらのIPをドライビングフォースとして、PS (パチンコ・パチスロ) メディアやその他のたくさんのメディアに展開し、「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて挑戦を続けていきます。

株主の皆様におかれましては、私たちの挑戦にご期待頂き、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

文・表紙文字=常務取締役(コンテンツ本部長) 栗原 正和

IRお問い合わせ先



フィールズ株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IR課
Tel: 03-5784-2111 (代表)
Mail: ir@fields.biz